

巻頭言

2000年問題

石垣 武男

あと少しで西暦2000年をむかえる。コンピュータ2000年問題については最近よく新聞、テレビなどで報道されている。コンピュータがこの世に登場したのはもちろん20世紀である。コンピュータを使って様々な作業をさせる時、年月の認識についてはコンピュータの処理が西暦の年号の下2桁だけで行われてきた。何故西暦をあらわす数字、4桁を使わなかったかといえば、これまでのコンピュータの計算能力が現在と比べればはなはだ貧弱であったためである。ところが1999年から2000年に変わった瞬間に、このままでは西暦1900年と認識してしまうことになる。年号の誤った認識によりコンピュータが誤作動する場合も考えられる。医療の現場では直接患者さんに影響のあるのは、例えば生命維持装置である。2000年をむかえた途端に停止してしまう恐れもある。巷で噂されていることも多々ある。飛行機が突然あらぬ方向へ向かったり、管制塔の指示が狂ったりして墜落するとか、原子力発電所で事故が起こるとか、電気が停まってしまうとか……。

20世紀の後半4半分はコンピュータ時代と言えよう。最近は特にコンピュータの恩恵を目に見えないところでも大いに蒙っている。もともと人間が知恵を絞って築きあげたものであるが、それが西暦の年号の桁数だけの問題で一大事が生じる危険があるということである。考えてみると背筋が寒くなる思いがする。科学技術の進歩が一気に飛躍したこの世紀末で、他にも色々問題を含んだことが多くみられる。人が人のために考えた技術やシステムが、その意図に反してかえって逆効果、それも集団に対しての不利益を与えることにならないよう熟慮することが大切である。我々一人一人も日常生活の中で便利さだけを追及するような現状を考えなおしてみることもこの際必要ではなかろうか。

(名古屋大学教授・医学部放射線医学教室、財団理事)